地方小出版情報誌
アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

立川和四郎富昌は二人いた！
誤って伝えられている“幕末の甚五郎”

文・ブックショップマイタウン店主　舟橋武志

『天空の龍（上）　幻の名匠　野村作十郎』（A5判・本体価格2000円）

●まさか？　定説に疑問を抱く

社寺の柱や欄間などには彫刻が施されているケースが多い。これらは「宮彫り」とも「装飾彫刻」とも言われ、荘厳さを醸し出すのに一役買っている。江戸前期は日光東照宮や静岡浅間神社に代表されるように極彩色で飾り立てられたが、後期になると白木のままで躍動感あふれるものに変わってゆく。

その代表格とされる流派が立川流である。初めは江戸で興ったが、信州諏訪の立川和四郎富棟が覚え、その子に和四郎富昌が出て一世を風靡した。各地の社寺を訪ねると彫刻のある建物が文化財に指定され、そこで“名人”富昌の名を知ることになる。

例えば長野県千曲市の興正寺には「初代富棟より弐代富昌にいたり、その繊細流麗の美は開花し、特に寺社建築装飾には新しい力と美を発揮し、県内に多くの文化財を遺している」との史跡標札が市教委の手によって立てられている。また、山梨県北杜市の諏訪神社の標札には「精巧な彫刻は全体の均衡を失わず、よく立川流の作風を伝えており、富昌傑作品の一つである」と書かれ、県指定の文化財であることを教えてくれている。

柱に取り付けられた唐獅子や象の頭、欄間などに彫られた龍や鳳凰。中国の故事を彫刻で表現したものも多い。これらの魅力に取りつかれて各地の社寺を訪ね歩いているうち、「そう書いてあるけど違うよ」という人がいたことだ。初めは信じられなかったが、戦前に出版された平凡社の『大百科事典』に出会ってから考え方が変わってきた。

それには「立川流」として「二代目は建築的才能はなかった」とある。そういう目で見ると、二代目のものとされている肖像画も気になりだした。それは千葉市の千葉神社で仕事をしていたとき、同地の「春子」によって描かれたものだが、当時の富昌は71歳に当たっており、とてもそのような年齢には見えない。

●和四郎に成り切った作十郎

ここから浮上してきたのが岐阜県多治見市出身の宮大工、野村作十郎だった。13歳のときに富昌のもとに弟子入りし、23歳で独立、その後も共に多くの仕事をしている。多治見は当時、尾張藩に属していたが、地元では6尺（約1.8メートル）の大男と伝えられ、村芝居では大石内蔵助を演じる人気者だったともいう。キセルを手にあぐらをかき、読んでいるのは歌舞伎の本ではないか。

立川流の宮大工の名が多く残されている中、作十郎の名前はまったくと言っていいほど出てこない。取材は難航し、関係者からは「これだけ定着しているのに、何を言い出すのか」と白い目で見られることもあった。この世界では和四郎富昌は“名人”“名工”としてあまりにも有名で、疑う余地すらなかったのである。

しかも当の社寺や自治体に残されている棟札や請負書などの古文書には「立川和四郎」「立川富昌」「立川内匠」（内匠とも称していた）とはっきり署名されている。これが紛れもない証拠とされ、専門家や文化財関係者によって公認されてきた。筆者自身もそれを信じて疑わなかったが、取材を進めて

▲長野県千曲市・武水別神社の脇障子

▲愛知県春日井市・内々神社の海老紅梁

ゆくうち、その多くを作十郎が名代として「和四郎」「富昌」「内匠」と書いていることに気付いた。

和四郎富昌は大工の棟梁と彫り師の二人が名乗っていたのだ。しかし、同じ立川を使ってはいても、よく見ると筆跡が違っている。作十郎は「和四郎」と署名しながら「作十郎」と読める印鑑も押している。ここから取材は急展開しだした。

「違うよ」と言っていた人は親や周囲の人たちの話から、彫り師の和四郎が作十郎であることを知っていたのだ。作十郎は「龍を彫らせたら右に出る者がいない」と言われ、彫刻のうまさから甚五郎とも呼ばれていた。それが時の経過とともに忘れ去られ、棟札や古文書に残る棟梁の二代目和四郎富昌が独り歩きしだした。

こうした目でさらに取材を進めてゆくと、二代目の死後も「和四郎」「富昌」が“活躍”していたことだ。二代目は安政3年（1856）に75歳で亡くなっている。その和四郎が安政5年に三河・正法寺の本堂を再建し、明治3年（1870）には遠州・掛塚の祭り屋台に彫刻を残していたのである。

●後世に二代目を神格化する動きも

立川流は社寺の建築と装飾で旋風を巻き起こした。後世になるにつれ、富昌は神格化されてゆく。中には死後の作品を富昌とする偽文書も登場し、肖像画にある「春子」を消して「自画」としたものもある。いま二代目富昌の彫刻とされているものは東は千葉から西は京都まで広く分布している。

こうなってくると和四郎＝作十郎が彫ったと言われてきたものでも、和四郎なら二代目のことだとして富昌の作品に書き換えられてゆく。関係する社寺もそれを名誉なこととし、棟札や古文書をもとに専門家や自治体も追認した。富昌“名人”伝説は増幅され、逆に作十郎は消されてきた。

富昌の作品は50代ごろから急に多くなる。このため「遅咲きの名工」と評する人もあるが、彫刻が急にうまくなるとは思えない。これは弟子入りした作十郎がめきめき腕を上げ、実力を発揮しだしたからだろう。

明治時代、立川流から立木音四郎種清という大工が出た。いまでは二代目富昌の弟子とされているが、彼は作十郎を師匠としていた。作十郎の墓は自然石を利用して作られており、音四郎は生前「棟梁と同じような墓に」と言い、その形を絵にまで描いて指示している。ちなみに、二代目の墓は加工された立方体のものだ。

●「ワシが建てる、お前が彫れ」

二代目富昌は彫り師としてではなく、宮大工の棟梁として“天才的”だったと言うべきだ。“棟梁の中の棟梁”大棟梁として、名プロデューサーとして大工集団を率い、立川の名を飛躍的に高めた。作十郎を見いだし育てたことにより、二人は絶妙のコンビネーションを保ち続けた。筆者には「ワシが建てる、お前が彫れ」と言っている声が聞こえてくるようでもある。

作十郎は絵も描いた。葛飾北斎最晩年の大作として有名な信州小布施・岩松院の天井絵「八方睨み鳳凰図」。89歳になる北斎が江戸から来て描けたとはとても思えず、筆者は作十郎その人の作品だとにらんでいる。

そのとき、作十郎は近くの武水別神社の本殿を再建するため、長期にわたって同所に 滞在していた。そこには天井絵そっくりの鳳凰を彫刻で残している。北斎は小布施へ「 半てん姿で来た」と伝えられているが、それはまさに大工職人の作十郎ではなかったのか。

当初は思ってもいなかった作十郎を知り、昨年、地元の中部経済新聞に「天空の龍　幻の名匠野村作十郎」と題して連載させてもらった。約束の半年間で「おわり」となったが、その後、これまでの調査を裏付けするような話がいくつかもたらされた。連載終了後も追跡取材を重ね、新たな章も加えてこのほど上下2巻にまとめた。

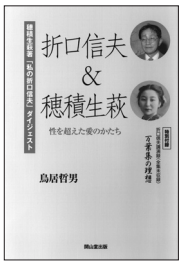
本にするに当たっては新聞記事をそのまま版下にした。これには同時進行の形で書いた臨場感と毎回掲載した写真を生かしたい思いもあった。作十郎の実像や実績などは本書に譲るとして、彫刻に関しては作十郎の視点で、いま一度、再検討されなくてはならない。

（ふなばしたけし／ブックショップマイタウン店主）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『折口信夫＆穂積生萩　ー性を超えた愛のかたち』●鳥居哲男著



折口信夫唯一の女弟子である歌人・穂積生萩。その存在が世間一般に知られるきっかけとなった彼女の著書『私の折口信夫』が刊行されたのが1978年（2001年に文庫化）。36年後の昨年、装いも新たに再び世に出た。原本のダイジェストに加え、直接彼女に取材した著者による解説付きである。女嫌いで同性愛者、さらに気難しく近寄りがたいというイメージの強い折口だが、本書によりそうしたイメージが多面的人間・折口のほんの一部でしかないことを認識する。ねちっこい愛しかたをする折口と猪突猛進的で天真爛漫な性格の穂積という対照的な二人、年齢差40年の開きがあるにもかかわらず彼女だけが折口の内面に潜む複雑怪奇さというか深い情念を理解することができた。あくまで彼女の主観によって語られる折口像であるが、変に客観的になっていないのが読んでいて潔く感じられ、その卓越した文章力と驚嘆すべきエピソードの数々に圧倒され思わずのめり込んでしまう。

◆2916円・四六判・287頁・**開山堂出版**・東京・2014/9刊・ISBN978-4-906331-80-2

『親なき家の片づけ日記　信州坂北にて』●島利栄子著

信州に暮らした両親が亡くなって10年。家の片づけに、夫を伴って千葉から毎月通い続けた。食器ひとつ鍋ひとつに母の思い出がこびりつき、どうしてもっと良くしてあげられなかったかと涙がこぼれる。夫は野菜作り、夏には子供たちの田舎体験の場となる。代表を務める勉強会の合宿所となり、東京の友人たちも訪ねてくる。無口な夫が、畑仕事の世話をしてくれる隣家の主人と酒を酌み交わし、女房の悪口を言い合う仲に。この古い家が、思いもよらぬ新たな交流の場に甦っていく。旧知の写真家に遺品の撮影を依頼する。写真家は宮本常一の生家のある山口県周防大島から、1000キロの道のりを、フィルムカメラを抱えてやってきた。柔らかい自然の光で、主張しない写真を撮りたいと、何日でも待ち続ける。

その10年間のよしなしごとを綴った日記に、明るく優しい写真がさり気なく寄り添う。人と自然の温かい営み、人として大事なもの。心がしみじみと充たされる。

◆4536円・228mmx190mm・191頁・**みずのわ出版**・山口・2015/1刊・ISBN978-4-86426-027-5

『生類供養と日本人』●長野浩典著

高校教師であった著者は郷土史研究部という部活動の顧問を務めていた時、近くの神社にウミガメの墓があることを知る。それを皮切りに大分県内にどれくらい動物の墓があるか生徒たちと調べ始めた。すると鯨や魚、鹿や熊、蚕や蝗等の供養塔が県内にあることが次々と判明する。そのフィールドワークは西日本を中心としているが、猪や鹿の供養塔を訪ね歩きながら、この国の動物歴史民俗学とでもいうべき考察が展開されていく。そして「生類供養」とは、生き物の殺生なしには生きていけない罪悪感を消去するための「装置」であるとの本質論を抽出する。この日本人の心性は動物ばかりではなく、植物、ひいては縫い針など道具類にも及ぶ。またそういった生類供養は古来からのものだが、供養塔や慰霊碑の建立は近世以降である事実が産業史との関連で述べられる。さらに、西南アジアからヨーロッパに見られる「供儀」が、動物殺生罪悪感消去のもう一方の「装置」であると、比較考察されている。

◆2160円・四六判・238頁・**弦書房**・福岡・2015/2刊・ISBN978-4-86329-112-6

『小さいことはいいことだ　ーグリコおもちゃデザイナー物語』●樋口須賀子著

“豆玩”と書いて“おまけ”。おまけと言えばグリコキャラメルについていた小さなおもちゃを連想する人は少なくないはず。そのおもちゃのデザイナーとして昭和10年にグリコに入社した宮本順三。大正4年に大阪で生まれた順三は幼少時から祭りや縁日に親しみ、駄菓子屋で玩具を手に入れ、小学生の頃から絵画が得意だった。

戦時下ではおまけも軍事色が強くなり、果ては物資不足でおまけ自体がなくなってしまう。退社はしたものの、戦後も広告宣伝とおまけ製造に協力し、おまけ文化の担い手となって、子ども達の夢を育んだ。1998年には長年の夢だったおもちゃ館「豆玩舎ＺＵＮＺＯ」をオープンし、友の会として「おまけ文化の会」も発足。以前出版された自叙伝を基に再構成し、2004年に順三が他界した後から現在に至るまで、館と会の活動が記されている。おまけの写真や順三のイラストも多数収録され、児童文化の資料としても貴重である。

◆1944円・四六判・239頁・**アットワークス**・大阪・2015/1刊・ISBN978-4-86580-100-2

『ベトナムの謎』●片岡利昭著

ベトナムは古くから阿倍仲麻呂や平群広成といった日本人が訪れ、中世には多くの日本人が住み、今もその墓地が残されているなど、日本との関係も浅くない国です。しかしベトナムはその歴史の上では、外国との戦争に長く苦しめられました。特にアメリカとのベトナム戦争はよく知られています。それ以上に隣国中国の影は大きく、ベトナム戦争の始まりも、フランスとの戦争後のジュネーブ協定での中国の態度が大きく関わっていると著者は述べています。また1979年にはベトナム軍のカンボジア侵攻をめぐって、中国とベトナムで軍事衝突が起きました。本書の記述もベトナム戦争やその後のカンボジアとの戦争、中国との抗争に多くの記述が費やされています。また日本軍の進駐時代やその後ベトナムに残った日本兵など、あまり知られていない話も多くあります。幾多の戦火を潜り抜けながら、なお笑顔を忘れない国ベトナムの近現代をコンパクトに知ることが出来る一冊です。

◆3240円・四六判・219頁・**エヌ・エヌ・エー**・東京・2015/1刊・ISBN978-4-86341-031-2

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2015年2月1日～28日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**あおもり草子**　No.228　佐藤　史隆編　A4　48頁　600円　企画集団ぷりずむ［青森］　978-4-503-20469-1　15/02

◆**GREEN REPORT**　422　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-54-1　15/02

◆**ママともぷらす　東京ベイ・千葉版**　No.63　市川　恵美子編　A4　88頁　600円　明光企画［千葉］　978-4-503-20477-6　15/02

◆**子どもと読書**　410号　親子読書地域文庫全国連絡会編　A5　44頁　550円　親子読書地域文庫全国連絡会［神奈川］　978-4-907376-10-9　15/02

◆**かまくら春秋**　No.539　伊藤　玄二郎編　B6　92頁　320円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0650-5　15/03

◆**くらしと教育をつなぐ　We**　No.194　中村　泰子編　稲邑　恭子編　A5　80頁　864円　フェミックス［神奈川］　978-4-903579-61-0　15/02

◆**AXIS**　Vol.174　石橋　勝利編　A4　128頁　1800円　アクシス［東京］　978-4-503-20481-3　15/04

◆**Be！**　118号　No.142　今成　知美編　A5　110頁　864円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］　978-4-901030-95-3　15/03

◆**地方史研究**　第373号　地方史研究協議会編　A5　120頁　1234円　岩田書院［東京］　978-4-87294-973-5　15/02

◆**日本宗教文化史研究**　第36号　日本宗教文化史学会編　A5　112頁　2376円　岩田書院［東京］　978-4-503-20471-4　14/11

◆**仏事**　No.174　奥村　昇編　A4　92頁　1620円　鎌倉新書［東京］　978-4-503-20482-0　15/03

◆**月刊住職**　No.195　矢澤　澄道編　A5　201頁　1404円　興山舎［東京］　978-4-908027-04-8　15/02

◆**子どもの文化**　No.527　片岡　輝編　A5　48頁　313円　子どもの文化研究所［東京］　978-4-503-20484-4　15/03

◆**子どもと本**　第140号　子ども文庫の会編　A5　48頁　637円　子ども文庫の会［東京］　978-4-906075-44-7　15/01

◆**茶道の研究**　No.711　三徳庵編　A5　76頁　540円　三徳庵［東京］　978-4-503-20465-3　15/02

◆**調査情報**　No.523　市川　哲夫編　255mm×160mm判　108頁　789円　TBSテレビ［東京］　978-4-906908-84-4　15/03

◆**東京かわら版**　No.497　佐藤　友美編　204mm×108mm判　150頁　500円　東京かわら版［東京］　978-4-503-20478-3　15/02

◆**俳句四季**　No.451　松尾　正光編　西井　洋子編　B5　160頁　931円　東京四季出版［東京］　978-4-503-20475-2　15/02

◆**子どもの心と学校臨床**　第12号　遠見書房編　A5　145頁　1512円　遠見書房［東京］　978-4-904536-85-8　15/02

◆**みんなの図書館**　No.455　図書館問題研究会編　A5　72頁　810円　図書館問題研究会［東京］　978-4-503-20470-7　15/02

◆**おりがみ**　No.476　日本折紙協会編　A4　51頁　786円　日本折紙協会［東京］　978-4-86540-019-9　15/04

◆**海運**　No.1049　日本海運集会所編　A4　72頁　1296円　日本海運集会所［東京］　978-4-503-20467-7　15/02

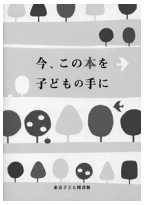
◆**マクロビオティック**　No.930

売行良好書

期間：2015年2月16日～3月15日

［出荷センター扱い］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『明星』3240円・ナナロク社　(2)『今、この本を子どもの手に』1080円・東京子ども図書館　(3)『江若鉄道の思い出』1728円・サンライズ出版　(4)『海辺を食べる図鑑』2160円・南方新社　(5)『九州の巨人！と巨木！！巨大仏！！！』1728円・書肆侃侃房　(6)『生類供養と日本人』2160円・弦書房　(7)『今日の漫画　史群アル仙作品集』1296円・ナナロク社　(8)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1404円・書籍情報社　(9)『不登校は1日3分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(10)『サリン　それぞれの証』2160円・本の雑誌社　(11)『知られざる日本の地域力』1944円・今井出版　(12)『なせば成る！　改訂版』864円・山形大学出版会



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　３５』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『本の雑誌　３８２号』720円・本の雑誌社　(3)『東京かわら版　３月号』500円・東京かわら版　(4)『本で床は抜けるのか』1728円・本の雑誌社　(5)『古本屋ツアー・イン・神保町』2160円・本の雑誌社　(6)『円周率１、０００、００００桁表』339円・暗黒通信団　(7)『パズル通信ニコリ　Ｖｏｌ．１５０』907円・ニコリ　(8)『三角形』360円・暗黒通信団　(9)『榛名図式　桑原辰雄詰将棋作品集』1404円・双峰社　(10)『中学生の正しい勉強法　改訂版』1296円・瀬谷出版

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『生類供養と日本人』2160円・弦書房　(2)『高尾山・景信山　陣馬山　登山詳細図』823円・吉備人出版　(3)『奥多摩登山詳細図（西編）　雲取山・三頭山・御前山・鷹ノ巣山　全１１２コース』950円・吉備人出版　(4)『江若鉄道の思い出』1728円・サンライズ出版　(5)『サイレンと犀』1836円・書肆侃侃房　(6)『不登校は1日3分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(7)『郡山の城館』648円・歴史春秋社　(8)『昆虫の図鑑　採集と標本の作り方　増補改訂版』3780円・南方新社　(9)『橋川文三　日本浪曼派の精神』2484円・弦書房　(10)『いのちをいただく』1296円・西日本新聞社　(11)『秩父事件』2160円・埼玉新聞社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼児童作家・石井桃子さんたちとともに**東京子ども図書館**を作り、その理事長として40年余り、今年八十才を前にした松岡享子さんが、岩波新書【こどもと本】を刊行しました。松岡さんが子どもと本の出会いを作ってきた仕事の集大成と言えます。五つの章に分かれていますが、四章の「本を選ぶことの大切さとむつかしさ」、五章の「子どもの読書を育てるために」は、著者の、子どもたちに本を届けようとする熱意が伝わってきます。子どもにたいする図書館サービスについて一般の人々の関心を呼び起こすきっかけとなったのは、1965年に刊行された石井桃子著の【子ども図書館】（岩波新書）でした。石井さんが自宅に開いた家庭文庫の7年間の記録です。この本に刺激を受けて全国に私設の子ども図書室が誕生し、1974年を境に急激に増加、推定で五千、全国の高等学校の数に匹敵するものでした。そして公共図書館の児童サービスが広がり、蔵書数の上でも貸出数の上でも格段の発展、進歩を遂げました。

▼赤ちゃん絵本「いないいないばあ」で有名な松谷みよ子さんが89才で亡くなりました。幼年童話の作者であるとともに、「現代民話考」など民話の採録にも尽力されました。ご冥福をお祈りいたします。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。

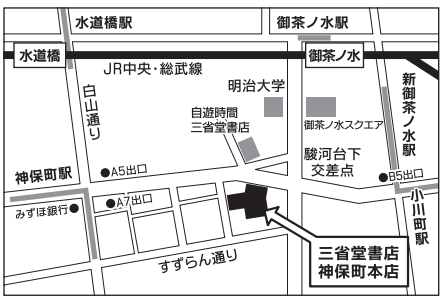
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

三省堂書店
BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。



地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。